

宮崎県防災会議地震専門部会（第2回）議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和6年10月16日（水）10：00～12：00

場 所：宮崎県庁防災庁舎4階 防43号室

（対面・オンラインのハイブリッド開催）

出席者：杉山委員、早田委員、原田委員（議長）、福林委員、丸山委員、村上委員、山下委員、大嶋委員、桑畑委員、晴山委員、有水委員、児玉委員

2 議事要旨

（1）津波浸水想定の更新等について

①津波浸水想定調査の概要

事務局からの説明内容

- ・津波浸水想定調査の位置づけ
- ・県のこれまでの被害想定調査、国の動き、主な被害地震等
- ・今年度調査の概要

②最大クラスの津波の波源と計算条件の設定

事務局からの説明内容

- ・前回調査以降の新しい知見の整理
- ・最大クラスの津波の波源及び計算条件の設定
- ・最終成果品

委員からの主な意見

- 津波浸水想定更新結果をいかに広報するかが重要なので、津波アニメーションについては見てもらえるかどうかを考慮して動画の長さを設定することが必要。他県でも同様の議論を行っており、2～3分までが適切ではないかと言われている。
- 津波アニメーションについて、広域のアニメーションは津波が何度も押し寄せる様子が分かりやすく良い。一方で、意識啓発においては、津波が目の前に迫ってくるようなアニメーションも避難に対するリアリティがあって良いのではないかと。
- 津波アニメーションは大変分かりやすいので、マスコミやSNS等伝える手段を上手に活用しながら伝えると良い。
- シミュレーションの手法は確立されたものであるが、その過程でミスがないように確実に確認を行ってほしい。

（2）津波避難等に関する県民意識調査について

①調査概要、②調査票配布数

事務局からの説明内容

- ・調査概要
- ・各市町の調査対象数の算出方法

委員からの主な意見

- 現在沿岸市町のみとしている調査対象地域を、次回調査以降は県内全域とすることを検討してはどうか。
- 2～3年に一度等、定期的に調査を行うこととした方が良いのではないか。
- 今回の調査は、令和6年8月8日の日向灘の地震を受けて防災意識が高い結果となることが予想される。通常は、時間の経過とともに意識は下がるものなので、それなりの頻度で定期的に意識の変化を見ていくことが重要。

③調査項目 ※非公開

事務局からの説明内容

- ・ 第1回地震専門部会の意見を踏まえ、郵便番号、津波警報等の情報入手手段に関する設問、及び南海トラフ地震臨時情報に関する設問を追加する。
- ・ 早期避難率に係る設問については、従前の設問及び改善した設問の両方とする。
- ・ 令和6年8月8日の日向灘の地震への対応に関する設問を追加する。
- ・ 設問を「自然災害全般に関すること」と「地震・津波に関すること」に分類して再整理する。

委員からの主な意見

- 地震・津波を想定した避難に関する設問に「避難する」と回答した人が、令和6年8月8日の地震の時に実際に避難したかどうか分かるが良い。
- 被害想定の手法において、直接避難が発災後5分、用事後避難が発災後15分で避難を開始するという時間設定が適切かどうかについても議論が必要ではないか。
- 一般の人には難しい、イメージしづらいと感じる用語が多く出てくるので、可能な限り分かりやすくしてもらいたい。